

背景



白河市のシンボル“小峰城”

江戸時代に奥州の関門としての役割を担った小峰城。主要な建物は戊辰戦争で焼失してしまいましたが、平成3年に三重櫓、平成6年には前御門が史実に忠実に復元されました。



東日本大震災で石垣が崩落するも、平成30年に復旧

平成23年の東日本大震災では10箇所の石垣が崩落し、文化財では最大の被害となりました。7,000個あまりの崩落した石ひとつひとつに番号をふり、崩落前の写真を参考に、まるでパズルのように、元あった位置に石材を戻すことを基本に修復を行いました。



崩落した石垣
(平成23年)



型紙を使った石積の
シミュレーション

これまでの取組



「清水門」を復元し、城郭としての威容を整えたい

清水門は、本丸と二之丸の境にあった要の門で、高さは約11m・間口は約14mの、小峰城で最大規模の櫓門でした。清水門の復元により、史跡の価値と魅力をさらに高め、白河が刻んできた長い歴史のドラマに思いを馳せていただきたいと思います。

清水門がかつて
あったところ[黄色枠内]



復元イメージ



現状の課題

**事業
内容**

清水門復元整備事業（小峰城一石城主プロジェクト）

江戸時代に城内の櫓や門を実測して作られた『白河城跡御櫓絵図』や、発掘調査成果を元に、忠実な復元を目指し、令和2年度より基本設計を進めております。併せて、清水門復元のため“小峰城一石城主プロジェクト”と銘打ち、1,000円を「一石」とみなし、白河藩の最大石高15万石を目標に寄附を募っております。


**得られる
成果等**

心の復興と、次世代への継承

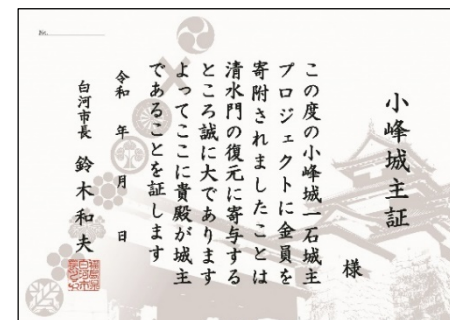

文化財の復旧・整備は心の復興にもつながると考えております。そのため白河市は、平成28年の熊本地震で甚大な被害を受けた熊本城の石垣修復の際、培った経験を伝えてきました。その時の思いを次世代につなげていくため、私たちは今後も歴史を大切に、足元の資源を磨く取り組みを続けてまいります。

**寄附の
メリット**

寄附による企業様のメリット

企業様の寄附特典として、城主証の贈呈、市ホームページ及び限定ブックレット（清水門完成後作成）にご芳名を掲載させていただきます。

清水門とともに、長く歴史に名を残すことができる当事業に、ぜひご支援とご協力をお願いいたします。



小峰城主証

連絡先

白河市建設部文化財課 文化財保護係


Tel:0248-27-2310 Mail:bunka@city.shirakawa.fukushima.jp